

研究経過報告書

2023年 9月30日

| | |
|--------------|--|
| 研究員 (留学者) | 所属 21世紀アジア学部 職 教授 氏名 R. カイム |
| 派遣期間 | 5年 4月 7日 ~ 5年 9月16日 |
| 研究主題等 | ポル・ポト政権がカンボジア社会・経済に与えた影響に対する復活政策とその効果について |
| 報告事項 | (研究活動の概要、内容、成果等、添付書類の見出し等) |
| | 【研究活動の概要】 |
| | 本研究は、カンボジア復興・再建における教育（特に高等教育）と経済発展の関係を調べることを目的としたプロジェクトの最初の段階として構想された。したがって、今期は当該プロジェクトの準備期間に当たる。 |
| | 派遣期間は、随意研究員としてカンボジアにおいて研究活動を行った。現地での状況は困難であり、当初の研究計画の調整が必要になった。現地の大学図書館等の事情により計画した文献調査を省略し、意見調査を増やす必要が生じた。それにもかかわらず、プノンペンにある王立プノンペン大学開発学部と総理所属大臣代表の暖かい協力を得ることができた。 |
| | 【研究活動の内容と成果】 |
| | 1) 背景 |
| | ポル・ポト政権下、カンボジアの旧体制、従来の文化および芸術、インテリ階級等が消失されたことにより現代社会、現代経済または生活水準、社会や国の統一性の基盤である行政、公共の福祉（特に |
| | |
| | |
| | |

| |
|--|
| <p>医学、法学、教育)、ビジネス、文化および芸術、そしてそれらと関わる人材育成能力も破壊された。そのため国の再建のために、人材育成能力復活政策および国際社会からの援助が非常に重要な役割を担っている。</p> |
| <p>2) 研究内容と成果</p> |
| <p>1990年代以降カンボジアは、高成長経済発展を実現することができた。一人当たりのGDPは、1993年での247.3米ドルのベースから2014年には1,000ドルを超え低中所得国になった。</p> |
| <p>(比較: 隣のベトナムは2010年、ラオスは2011年に達成)</p> |
| <p>2022年までに1786.6ドルになった。カンボジア政府は、2030年までに高中所得国(4,000ドル超)になり(比較: タイは2010年、インドネシアは2013年に達成)、2050年までに高所得国(12,000ドル超)になる目標を持っている。</p> |
| <p>この中所得国の道を歩む中、成長や発展を制約する可能性がある要因がいくつか考えられている。カンボジアの政策立案者、民間部門、開発専門家、二国間および多国間の海外開発パートナーの間では、スキルギャップがそのような要因の1つであるということで幅広いコンセンサスが得られている。低～中程度のスキル集約型産業であっても、熟練した人材はますます不足している。さらに、業界や企業が必要とする人材スキルと、学術訓練や職業訓練などの教育機関が生み出すスキルとの間のギャップは、ほぼ毎年拡大している。カンボジアが高中所得国になるというビジョンを達成するためには、この拡大するスキルギャップに取り組む必要がある。田舎に教育を受けていない余剰労働力があるのと同時に、都市部には教育を受けても失業していたりや不完全雇用である若者が多数いる。それにもかかわらず、工業部門とサービス部門での要求に対してスキルギャップが生じている。不十分な教育制度が、この労働力余剰とスキル不足の共存を説明するようである。低成長の中所得層の罠に陥ることを防ぐために必要とされるそのスキルギャップを埋めることを達成するにあたって教育制度を適切に整備すること</p> |

| |
|---|
| <p>が重要である。</p> <p>カンボジアには、スキルギャップに伴いスキルの不一致（ミスマッチ）問題もある。これは学校教育ギャップと学習ギャップという2つの教育ギャップの合計とみなすことができる。学校教育ギャップは主に、さまざまな教育レベルにおける低い入学率、高い中退率、低い修了率の結果のようである。学習ギャップは教育の質に関係しており、生徒が学校に通い、そこに留まり、必要な成績を修得したとしても、十分に学習していないことから生じる。今後の重要な課題は、教育の質を高めることのようにである。今後の予定は以下の通りである。</p> <p>(1) 教育ギャップとスキルギャップの両方を形成する要因に関する更なる情報を収集し、これらのギャップを削減するための実際的な方法を探ること。(2) カンボジア経済全体を特徴付けるスキル不足とスキルの不一致（ミスマッチ）の双方を形成する要因に関する更なる情報を収集し、これらのギャップを削減するための現実的な方法を探ること。(3) その制度が提供できる教育の質を制約する詳細な要因についてさらに情報を収集する。この中で、(a) 高等教育、(b) 技術・職業教育および訓練（TVET）に特に注意が払われる。</p> <p>本研究者の現在の理解によれば、次の詳細な領域が更なる調査にとって特に重要である可能性が高いと考えられる。</p> <p>高等教育：</p> <p>カンボジアでは、どのようにして文系卒業生とSTEM卒業生の人数でより良いバランスをもたらすことができるであろうか？</p> <p>カンボジアの高等教育全体の質を東南アジア地域の基準まで高めるには、どのような戦略や取り組みが適切であろうか？</p> <p>カンボジア人の就学率が高い（高等教育入学者の約60%）ことを考えると、私立教育機関が提供する高等教育の質をどのように改善できるであろうか？</p> <p>技術・職業教育と訓練：</p> |
|---|

| |
|--|
| 需要よりはるかに少ない熟練した TVET 卒業生の需要を満たすために、TVET の提供と質をどのように改善するか? |
| TVET の信頼できる認定および品質保証システムを実装するにはどうすればよいか? |
| TVET の直接提供への民間部門の参加が少ないことをどのようにして増やすか? |
| 以上 |
| 参考文献 |
| Bruni, Michele, Likanan Luch and Somean Houch (2013) <i>Skills Shortages and Skill Gaps in the Cambodian Labour Market: Evidence from Employer Skills Needs Survey</i> ILO Asia-Pacific Working Paper Series (Bangkok: ILO Country Office for Thailand, Cambodia and Laos) |
| Cambodia Development Resource Institute (2013) <i>Cambodia's Development Dynamics: Past Performance and Emerging Priorities</i> (Phnom Penh: CDRI) |
| Japan International Cooperation Agency (2016) <i>カンホシア国：産業人材育成基盤形成に資する教育セクター情報収集・確認調査ファイナル・レポート</i> (東京：JICA) |
| Madhur, Srinivasa (2014) <i>Cambodia's Skill Gap: An Anatomy of Issues and Policy Options</i> Working Paper Series No. 98 (Phnom Penh: CDRI) |
| Royal Government of Cambodia (2014) <i>National Strategic Development Plan 2014-2018</i> (Phnom Penh: RGC). |
| Royal Government of Cambodia (2019) <i>National Strategic Development Plan 2019-2023</i> (Phnom Penh: RGC). |
| World Bank national accounts data, and OECD National Accounts data files |
| https://data.worldbank.org/indicator/NY.GDP.PCAP.CD?locations=KH |